

もっと知りたい!クルマのこと

CAR LIFE



AACかわら版
カーライフ

〈発行所〉アフターマーケットサプライヤー活性化委員会

〔巻頭特集〕

Vol. **28**
2025 NOV.

TAKE FREE!

夏タイヤ・冬タイヤだけじゃない?
オールシーズンタイヤ
という**第三の選択肢**

車中泊にアウトドア...

**愛車と一緒に
行楽・レジャーへ行こう!**

〔運転前の5分間が命を守る!〕

日常点検のススメ [タイヤ編]

Car Owners Eye [カーオーナーズ・アイ]

12月から国産の継続生産車も自動ブレーキが義務化へ

**安全技術の進化と整備において
大きなターニングポイントに**

〔イベントレポート〕

**ジュニアメカニック2025 in東北
ジュニアメカニック2025@福岡**

夏タイヤ／冬タイヤだけじゃない？

オールシーズンタイヤという 第三の選択肢

カーオーナーにとって、保管場所やタイヤを運ぶ手間やコストなど冬のタイヤ交換のストレスを解消し、カーライフを根本から変える可能性を秘めているのが、昨年注目を集める「オールシーズンタイヤ」である。そこで今回編集部では、昨年、革新的な新技術「アクティブトレッド」を搭載した次世代オールシーズンタイヤ『シンクロウェザー』を発売し、話題を集めた株式会社ダンロップタイヤ（以下、ダンロップ）に、開発の経緯やその戦略、今後の見通しなどを伺った。

〔取材協力〕：株式会社ダンロップタイヤ <https://tyre.dunlop.co.jp/>

国内におけるオールシーズンタイヤの現状

欧州などでは2020年代に入り、既に約10%の市場規模を持っていたオールシーズンタイヤだが、国内では装着はもちろんのこと、その存在自体もよく知られていなかったのが実情だ。しかし、温暖化が進むにつれ異常気象（線状降水帯、暖冬など）に見舞われる機会も増え、雨や雪の降り方、タイミングが変わってきたことで各メーカーが積極的に商品を展開するようになり、その認知も上がってきている。ダンロップの担当者も「最近の市場変化は良い傾向と捉えています。ただ市場規模は未だ限定的で、国内の夏・冬タイヤ市場全体の中では約2～3%程度と推測されています。成熟した市場になるためには約10%程度（400万本/年）の規模に成長する必要があります」と現状の認識を話す。

シンクロウェザーの登場が変えた オールシーズンタイヤの常識

そんなオールシーズンタイヤだが、これまでは「凍結路面（アイス



バーン）は走れない」という大きな課題があった。雪道には対応できても、氷の上ではその性能がスタッドレスタイヤに劣るため、凍結の可能性のある地域では、冬タイヤへの履き替えがマストとなっていた訳だ。そこでダンロップでは、市場拡大のボトルネックになっていたこの大きな課題に正面から向き合い、その壁を乗り越える製品を開発した。それが「シンクロウェザー」である。

この「シンクロウェザー」の最大の特徴が、いわゆる“タイヤの二刀流”を可能にした「アクティブトレッド」と呼ばれる技術である。シンクロウェザーの核となるこの技術は、タイヤのゴムがまるで生きているかのように路面の状況に合わせて「能動的に性能を変化させる」という画期的な技術である（下記イメージ参照）。

シンクロウェザーのコンパウンド（ゴム）には、水の分子や温度に



（水スイッチ）
ON アクティブトレッド「水スイッチ」が働く仕組み

突然豪雨に見舞われると…
ブレーキ → ブロック → アスファルト
水スイッチが反応！
ブレーキ → ブロック → アスファルト
水に反応してゴムが柔らかくなる
WET グリップ UP!

OFF 水スイッチ OFF ON 水スイッチ ON

“濡れた路面にもしっかりとグリップする！”

（温度スイッチ）
ON アクティブトレッド「温度スイッチ」が働く仕組み

冬の凍結路面で…
ブレーキ → ブロック → アスファルト
温度スイッチが反応！
ブレーキ → ブロック → アスファルト
低温でもゴムが硬くなりくい
ICE グリップ UP!

OFF 温度スイッチ OFF ON 温度スイッチ ON

“氷上路面にもしっかりとグリップする！”

反応する特殊なスイッチが組み込まれている。ウェット路面では水に反応してゴムが柔らかくなり、凍結路面では、タイヤが硬くなるのを抑え、柔らかさを維持する。これにより、凍結した路面でもしっかりと密着してグリップ力を発揮することが可能となり、従来の弱点を克服。雪道走行だけでなく、凍結路面にも対応できる「真のオールシーズンタイヤ」へと進化を遂げたと言えるのだ。

またこの技術は、冬の路面だけでなく、雨の日（ウェット路面）の性能向上にも貢献している。シンクロウェザーは、水に触れるとゴムが柔らかく変化することに加え、濡れた路面で横方向にかかる力（コーナリングなど）に対して、一般的な夏タイヤを上回る排水性と安定性を発揮することができ、雨の多い地域や急な天候変化への対応力も高い。

これらの「アクティブトレッド」技術により、シンクロウェザーは夏タイヤが持つ高い走行性能と、冬タイヤが持つ優れたグリップ性能を高いレベルで両立する“タイヤの二刀流”を実現。なお同社の担当者によると、この技術は、オールシーズンタイヤのためだけでなく、今後、夏タイヤや冬タイヤにも搭載されていく予定とのことだ。

【解説動画】



SYNCHRO WEATHER徹底分析
なぜあらゆる路面に
シンクロできるのか？▶



ダンロップが考える オールシーズンタイヤの可能性

ダンロップの担当者は「シンクロウェザーは単なるニッチな商品としてではなく、日本の自動車文化を変える“戦略商品”として位置付けています」と話す。雪がめったに降らないものの、年に数回のリスクのために冬タイヤを用意したくないと考える都市部のユーザーをターゲットの中心とし、さまざまな車両に装着できるように、シンクロウェザーのサイズラインアップの拡大を進めており、これまで日本のタイヤメーカーの製品が届きにくかった輸入車オーナーに対しても、新しい選択肢として提案を始めているという。軽自動車から高級輸入車まで、幅広いサイズラインナップを揃えることで、シンクロウェザーは「日本の四季に適した新しいスタンダードタイヤ」へと進化を遂げようとしている。

オールシーズンタイヤの国内市場は、まだ数%程度とのことだが、人の移動、物の動きを止めないという社会的な価値、人手不足による将来的な整備工場の減少、クルマの保有から利用へといった変化などを背景に、そのニーズは今後必ず高まるとダンロップの担当者は話す。私たちが認知が広がってきたオールシーズンタイヤについて、正しい知識を持つことで、愛車のタイヤの選択肢が、夏タイヤ／冬タイヤ以外に1つ増えるのではないだろうか。

このタイヤ、何刀流だ。

晴・雨・雪・氷、あらゆる路面にシンクロする

SYNCHRO WEATHER ACTIVE TREAD

車中泊にアウトドア...

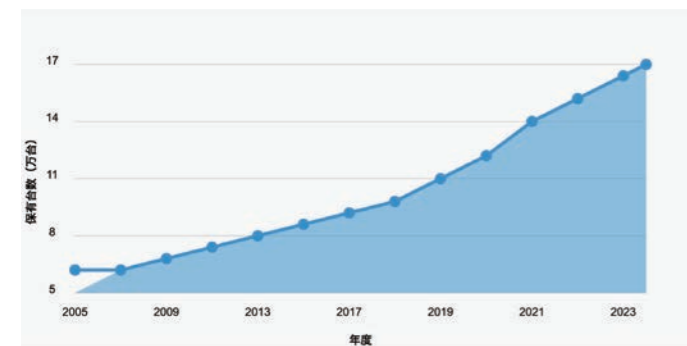
愛車と一緒に 行楽・レジャーへ行こう！

紅葉も進み、秋のレジャーシーズン真っ只中の現在、家族連れに人気なのが、アウトドアだ。根強い人気のキャンピングカーや安心して車中泊ができる施設の増加、クルマへの装備品・用品の充実、いわゆるオフローダーと呼ばれる人気車種の増加などが人気を下支えしている。そこで今回は、注目の車中泊施設やアウトドアに活躍するクルマへの装備品などをご紹介します。

キャンプにちょっとした贅沢を…キャンピングカー

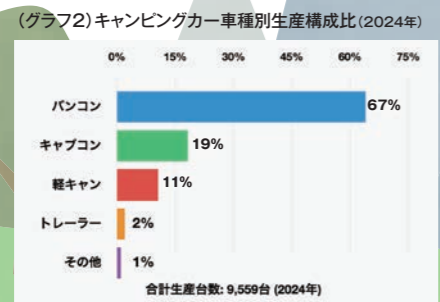
キャンピングカー・ビルダー・ディーラーなどが加盟する業界団体「一般社団法人日本RV協会」がまとめた「キャンピングカー白書2024」によると、2024年のキャンピングカー保有台数は約16万5,000台で、2005年の5万台から約3.3倍も増加し、中古車市場も活性化している(グラフ1)。なお同協会のレポートによれば、キャンピングカーユーザーの中心は50～60代の夫婦だが、コンパクトモデルの増加により都市部のユーザーも増加傾向にあるそうだ。またキャンピングカーは多くのオーナーが月1～2回の頻度で利用し、滞在日数は一般旅行より長い傾向にあるという。

(グラフ1) キャンピングカー保有台数の推移(万台)



(出典) 一般社団法人日本RV協会「キャンピングカー白書2024」より

なお、同白書によると、国内のエンドユーザー向けキャンピングカーの販売売上高は、1126.5億円(前年比107%)で過去最高の売上を記録したという。そんなキャンピングカーだが、その種類は「フルコン」「キャブコン」「バスコン」「バンコン」「軽キャンパー」「キャンピングトレーラー」の大きく6つに分けられる。ちなみに車種別生産構成比では、バンコンが生産台数の約67%を占める主力製品となっている(グラフ2)。



(出典) 一般社団法人日本RV協会「キャンピングカー白書2024」より



フルコンタイプ

専用のフレーム・エンジン・駆動系などで構成されているキャンピングカー。キャンピングカーのために一から車体を作られており、キャンピングカーの最高峰とも言われる。



キャブコンタイプ

トラックをベースに、荷台部分をキャンピングにしたもの。シェル部分を架装し、繋げているため、運転しやすいサイズであり、日本では最もメジャーなタイプとなっている。



バスコンタイプ

バスの車体をそのまま利用し、内装を改造したキャンピングカー。日本では駐車スペースを考慮し、マイクロバスをベースにしたものが多く販売されている。



バンコンタイプ

ハイエースなどのワンボックス車を改装したキャンピングカー。ベースとなる車両とサイズがあまり変わらず運転がしやすく、維持費が一般的なバンと同じである点も魅力的。



軽キャンパー

軽自動車や軽トラックをベースにしたキャンピングカー。小回りが効き、運転しやすいため、手軽にキャンピングカーを楽しむ方におすすめのタイプ。



キャンピングトレーラー


独立した居住空間を自家用車で牽引し、キャンピングカーとして使用するタイプ。注意点としては、750kg以上のトレーラーを牽引するときは「牽引免許」が必要となる。

お手軽な車中泊としての“RVパーク”の存在

ちなみに同協会では“快適に安心して車中泊ができる場所”としての車中泊施設「RVパーク」を全国に広めている。SAや道の駅とは違い、有料で利用することになるものの、同協会によると、2025年10月末時点で全国588カ所の認定施設が稼働しており、利用者数も増えているという。



全国の日本RV協会認定車中泊施設
RVパーク
<https://www.kurumatabi.com/rvpark/list.php>



車中泊の基本	▶ アイドリングをしない ▶ 車内の光を漏らさない(遮光カーテンやフィルムなどを使用) ▶ ポータブル電源などを確保しておく
--------	--

車中泊の「三種の神器」

車内で快適に寝るために欠かせない3つのアイテム



マット

- ・車のシートの段差や凹凸を解消し、寝心地を格段に良くしてくれる。
- ・厚さ10cm以上のものが特におすすめで、夏は通気性、冬は底冷え防止にも役立つ。



シェード・カーテン

- ・窓をすべて覆い、プライバシーの確保と防犯対策に必須。
- ・車内の温度調整(夏は遮熱、冬は保温)にも活躍する。車種専用のものを選ぶと、フィット感が高く便利。



寝袋(シュラフ)

- ・布団よりもコンパクトに収納でき、車内での使用に適している。
- ・季節に合わせて保温性の高いもの(特に冬)や、布団のように使える封筒型など、タイプに応じた選択を。

アウトドアであると便利な車載グッズ

快適性や利便性を高めるためのアイテムとしては以下の3点があると良い



ポータブル電源

アウトドアや車中泊で電気製品を使うための大容量バッテリー。エンジンを切ったまま(アイドリングストップ)で家電を使用できるため、快適性の向上とマナー順守に欠かせない。

▶ 選び方のポイント

容量 (Wh)	ファミリー/連泊なら500～1,000Whを目安に、使用したい家電の消費電力から必要な容量を計算。
定格出力 (W)	複数の機器を同時に使用するなら700W以上あると安心。
バッテリーの種類	リン酸鉄リチウムイオン電池は、長寿命(高サイクル数)で安全性が高い



ルーフキャリア

車のルーフ(屋根)上に荷物を積むためのアイテム。車内スペースが広く使えるようになり、特に大型でかさばるキャンプギアを運ぶ際に活躍。

▶ 選び方のポイント

ルーフボックス型	箱型でフタが付いているため、荷物を雨風や盗難から守れる。ただし車高が高くなる点には注意が必要。
ルーフラック(バスケット)型	カゴ状で、ネットやベルトで荷物を固定する。荷物の形状やサイズに自由度が高く、汚れた道具をそのまま積載するのに適している。
アタッチメント型	スキー・スノーボード、自転車(サイクルキャリア)、カヤックなど、特定のギア専用の積載具を取り付けるタイプ。




持ち運び用冷蔵庫
(車載冷蔵庫・冷凍庫)

電源(シガーソケットやポータブル電源)に接続して庫内を冷却するアイテムで、保冷剤の用意が不要。

▶ 選び方のポイント

コンプレッサー式	家庭用冷蔵庫と同じ冷却方式で、強力な冷却力がありマイナス20℃程度の冷凍も可能な高性能モデルが多い。長期間のキャンプや真夏の利用に最適。
ベルチエ式	熱電冷却素子を利用。コンプレッサー式より冷却力は劣るが、比較的安価で軽量、作動音が静かなのが特徴。短時間の使用や、メインのクーラーボックスのサブとして適している。

自分でチェック!



運転前の5分間が命を守る!

日常点検のススメ


タイヤ編

今号からスタートする新コーナー「日常点検のススメ」では、カーオーナーの義務である日常点検に関して、分かりやすくコンパクトに解説。初回は、クルマと路面を繋ぐ唯一のパーツである「タイヤ」の日常点検にフォーカス。ポイントは「溝の深さ」「空気圧」の2点だ。

ポイント①

タイヤの溝チェック

タイヤの溝の底には、一部が盛り上がった「スリップサイン」と呼ばれる目印がある。もし、タイヤの表面とこのサインが同じ高さになっていたら、それは溝の深さが「1.6mm以下」である証拠だ。



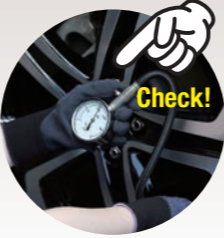
▶ 保安基準
保安基準:道路運送車両の保安基準では、タイヤの溝の深さは1.6mm以上と定められている。スリップサインが出たタイヤでの走行は整備不良で違反となる。安全のためにも、サインが出る前に交換を検討しよう。

ポイント②

「空気圧」の確認

空気圧が低すぎると...
▶ タイヤがたわみ、発熱しやすくなり、バースト(破裂)の危険性が高まる
▶ ハンドルが重くなったり、偏摩耗(タイヤの一部だけすり減る)の原因に

空気圧が高すぎると...
▶ 路面からの衝撃を吸収できず、乗り心地が悪化
▶ タイヤ中央部分だけが早くすり減る原因に



愛車の「適正空気圧」の値は、運転席側のドアの開口部や給油口の裏側などに貼られたステッカーに記載されている。必ずこの数値に合わせて調整をしよう。

日常点検は、クルマからの危険信号を見逃さないための大切な習慣だ。
タイヤについては、今回紹介した「溝の深さ」と「空気圧」の2点を、月に一度、または長距離運転の前には必ずチェックし、安心・安全なカーライフをお送り頂きたい。

NEW
New Item Debut!

Seednew® Maintenance Tools

「シーズニュー」は
ヤマト自動車の
オリジナルブランドです



例: 103N・m に設定



測る 挟む

12.7sq 72sq



S-DTR12200
12.7sq デジタルトルクレンチ
操作簡単! 手軽に使える高精度デジタル

New Items

「シーズニュー」より
使いやすさを追求した
新アイテム3点登場!

▲S-HLP7 ▲S-HLP10



新機構のロッキングプライヤー

S-HLP7/HLP10 ホールドロッキングプライヤー



ヤマト自動車株式会社

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島7-13-4

ホームページ

<https://www.yamato-a.com/>

ヤマトのウェブ

<https://www.yamato-a.net/>

Car Owners Eye [カーオーナーズ・アイ]

12月から国産の継続生産車も自動ブレーキが義務化へ

安全技術の進化と整備において 大きなターニングポイントに

2020年1月31日に、自動ブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)を義務化する道路運送車両法の改正が公布、施行されたことに伴い、自動ブレーキの義務化は国産の新型車を対象に2021年11月から既に始まっており、輸入車の新型車については、2024年7月から適用されている。

そして、いよいよ国産の継続生産車も今年12月より義務化される訳だが、このルール改正が自動車アフターマーケットの整備領域において、重要なターニングポイントになることをカーオーナーはご存じだろうか。

自動ブレーキ義務化のおさらい

前述の通り、2021年11月から、国産の新型車において自動ブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)の搭載が義務化された。この背景には、高齢者による重大な交通事故が増加し、社会問題となったことや、国際的な安全基準への対応がある。

自動ブレーキ義務化の最大の目的は、人為的なミスによって起こる交通事故、特に死亡事故や重大事故を減らすことにある。高齢化社会が進む中で、アクセルとブレーキの踏み間違いや、判断の遅れなどによる重大な衝突事故が社会問題化する中で、自動ブレーキは、これらの操作ミスや認知ミスをシステムが補うことで、衝突を回避、または被害を軽減する役割を担っている。国内においては、高速バスの居眠り運転による重大事故などを受け、事業用自動車から一般乗用車へと義務化の動きが拡大した。また日本は、自動車の安全基準を策定する国連欧州経済委員会(UNECE)の「自動車基準調和世界フォーラム(WP29)」において、自動ブレーキの国際基準の策定に積極的に参画し、世界に先駆けて、自動ブレーキの国際基準を国内に導入し、新車への搭載を義務付けたという流れがあることは知っておきたい。

みんな 知ってる 使ってる

Miyaco

の ブレーキ パーツ



ミヤコ自動車工業株式会社

国産の継続生産車への

「自動ブレーキ義務化」と整備への影響

2025年12月以降、日本の自動車市場は安全技術の進化と整備において大きな転換期を迎えることになる。前述の通り、既に国産の新型車(フルモデルチェンジ車)には義務化が始まっているが、2025年12月からは販売されている国産車の既存のモデル(継続生産車)も義務化の対象となる(下記スケジュール参照)。

【自動ブレーキ義務化スケジュール】

- ▶ 2025年9月以降に販売される新型のトラック、バス
(※総重量3.5トンを超えるトラックと乗車定員が10人以上のバスが対象)
- ▶ 2025年12月以降に販売される国産継続生産車
- ▶ 2026年7月以降に販売される輸入継続生産車
- ▶ 2027年9月以降に販売される軽トラック

なお自動ブレーキには、前方を監視するカメラやレーダーなどの電子制御装置が使われていることから、2025年12月からは継続生産車を含むほぼ全ての国産乗用車について、整備工場で対応が必要な「電子制御装置整備対象車」となる。

つまり、2025年12月以降に製造・販売される国産車は高度な安全技術を実践に持つ反面、修理や整備には専門の設備と技術(特定整備認証)が必要不可欠となり、自動車整備のあり方が大きく変わることになる。自分の愛車を預ける整備工場が認証を持っているか否かは、ユーザー自身で判断する必要があるのだ。

特定整備認証は緑色の看板が目印

6

7

クルマの

豆知識

EVENT REPORT | ジュニアメカニック2025 in東北／ジュニアメカニック2025@福岡

本格的な整備体験に
“未来の整備士たち”の笑顔広がる

楽しみながら整備作業を体験することで小・中学生の子供たちに自動車やメカニックの魅力を感じてもらおうと企画された本格的な整備体験イベント『ジュニアメカニック』が、2025年9月に宮城県仙台市、同10月には福岡県福岡市でそれぞれ開催された。慢性的な自動車整備士の人材不足問題に対して、行政と業界がタッグを組んだ注目のイベントの様子をレポートする。

ジュニアメカニック2025 in東北

2025年9月20日(土)・21日(日)の2日間、宮城県仙台市の夢メッセみやぎで、東北エリアでは初となる「ジュニアメカニック2025 in 東北」が開催された。本イベントは、国土交通省 東北運輸局などが実行委員会を構成し、企画された。東北エリアでは初開催となった「ジュニアメカニック」だが、地元のディーラーや自動車整備学校、警察や消防、JAFなど26の企業・団体が企画の趣旨に賛同して参加。初開催の反響は大きく、来場者は、事前登録者数を大きく超える1,877名を記録した。

整備体験に参加した子どもたちからは「タイヤ交換でしっかりネジが締まっているか確認することが大切だと思った」「普段見られないエンジンの分解が楽しかった」という声もあり、素直に整備作業を楽しんでいる様子うかがえた。



ジュニアメカニック2025 @福岡

2025年10月4日(土)・5日(日)の2日間、福岡県福岡市博多区のマリンメッセ福岡B館では、



昨年に続き「ジュニアメカニック2025@福岡」が開催された。国土交通省 九州運輸局が企画を発案し、2回目の実施となった今回は、前回を上回る16の地元企業・団体が参加。地元ディーラー、自動車整備学校、車体整備協同組合、日本自動車連盟に加え工具メーカーの協力もあり、プロが現場で使用する工具や設備を使用し、実車で様々な体験を楽しめるコンテンツが用意されたこともあり、昨年の約3倍となる1,278名の親子連れが会期中に来場。地元テレビ局の放映もあり、入場受付には行列ができるだけ大盛況となった。

今回、特に高い人気を集めていたのは、プロが現場で使用する塗装ブースでスプレーガンを使い、水性塗料で実車にペイントする塗装体験。カラフルな塗料を吹き付ける子どもたちの表情は真剣でありながらも、充実感に満たされていた。



整備士不足という自動車業界全体の課題解決には、子どもと一緒にカーオーナーである保護者たちが、高度化する自動車整備・修理の現状や、プロの現場で使用されている最新設備などを知ってもらう機会があることは実に重要だろう。子どもたちの笑顔と、それを見守る大人たちの真剣な眼差しが、自動車アフターマーケット業界の明るい未来に繋がっていくと信じた。なお来年も仙台・福岡共に『ジュニアメカニック』は開催される予定だという。



アフターマーケットサプライヤー活性化委員会(AAC)とは？

AACは、全国の有力な部品商が集まり、より高度な補修部品や関連商材の販売・提供のノウハウを勉強し、従来あまり得意としなかった補修部品以外の商品・サービスの研究をし、その情報をお客様にご提供するために、勉強と交流の場をベースに「さらなる高みを目指して」活動している組織です。100年に1度の大変革期にある自動車業界において、今できること、すべきことを従来の価値観に縛られずに、しっかりと推進し、業界活性化を図り、ひいては地域社会の発展に寄与すべく、活動を行っています。

「CAR LIFE」に関する
ご意見・ご感想・ご要望などを寄せてください



編集部では、今後ともコンテンツの充実に努めて参ります。皆様からの多様なご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまで、お寄せ下さい。

CAR LIFE編集部 ▶mail:info@aa-c.jp